

台湾出身の戦没者慰霊塔

糸満で完成「絆深めたい」

【糸満】第2次世界大戦で日本兵として出征し、命を落とした台湾出身の戦没者を慰霊する「台湾之塔」が、平和祈念公園（糸満市）の航空関係者を慰霊している「空華（くわ）之塔」（沖縄翼友会の敷地内に完成し、25日午後、竣工式と第4回台湾出身戦没者慰霊祭主催・一般社団法人日本台湾平和基金）が行われた。

台湾之塔は第2次世界大戦で日本軍人・軍属として出征した約20万人のうち、約3万柱の戦没者と約1万5千人の行方不明者の御霊を慰霊する。

当時、日本兵としてシンガポールへ出征した楊馥成さん（94）は「大戦で命を落とした仲間たちも喜んでいえると思う。これで皆に顔向けできる。安らかに眠ってもらいた

い」と安堵の表情で語った。

許光輝理事長は「沖縄と台湾の関わりは非常に深い。この碑はお互いの絆の象徴。今後も一緒に平和を求めていきたい」、愛知和男会長は「時間はかかったが、大勢の方々の応援と努力のおかげで完成できた。これを機に

日台の絆を更に深めていきたい」と期待した。これまで、平和祈念公園には各都道府県や韓国人慰霊塔はあったが、台湾人の慰霊塔はなく、平和の礎に台湾出身者34人の名前が刻まれているのみだった。



竣工式で関係者が除幕の儀を行った＝25日午後、平和祈念公園（糸満市）